



古山  
通巾

膝  
柔巾色

三下

^ 13  
3664  
4





門へ13  
號3664  
卷4

相門  
良半

大山  
道中

栗毛二編下下 瀧亭鯉丈作

の老に人のあつみとんと大木のものに

よきものさくくもてけりて

あつみとんと大木のものに

あつみとんと大木のものに

あつみとんと大木のものに

あつみとんと大木のものに

あつみとんと大木のものに

あつみとんと大木のものに

あつみとんと大木のものに

七  
五  
〇







かろぐらふいかなんでもねのハサハサハハサねをねのそふ  
でもあちふが何なにかかづがきうねううがまんふも  
かつげや人ヨヨ考考「それかへいせいのもでびざりまいた  
はきぎふそんるうすのろひもせいでいねる  
めいなたるをせりりの人とさるをせりぶるん  
指さし丁ていや指さし五ご丁ていかまんささねるぶがまねあう本の  
かろうちちをそのまうくごアミぢんふんごへうう  
ぢうのみさるたイイササくく其事そのことハハ随よの分ぶんをを承うけ継つしてある

はふと今いまいふいふなりなりちち福ふく七しちぢふもかつげをふも  
ねくち福ふくへへそろうよかつぐるアアかつぎもせうが何  
ろくごが女め来きため人ひとヨヨそんるうかうするういそを  
しんりて駕かと一いつ挺ていたのんで本ほんさうせえる駕かちん  
いころちをせせををふいふい考考「イヤサイヤサををこがこがあるある後あとあう  
お手ての方かたにたのふふ志しまませんが夜よハハ合あのの宿しゆくで  
今いまごろの駕かううたたハハせりも居ゐををせんせんそそううアアんんご  
たのんぢう人も女め来きたまませうがこころはしアアのの色いろり











いふくわんどうごあすこせしとやでもたのんでアキラカ  
 とあてあろうち人のくわんもアキラカあきらまてあうあうさくま  
 挺ぐあうく下甘人アキラカ向入まてあうあうあうさくま  
 かくあうくくごさる中るアキラカあうくくまあうあう  
 手もアキラカ肩しとアアあね人アキラカあうくくまあうあう  
 あんえごぞとえあうあうあうあうあうあうあうあう  
 いわでもたのんであたるせ人アキラカあうくくまあうあう  
 知ごアキラカア福七あいのなるート  
あはれをうけりけ人の疾  
 とまはれまをさくまのて

あはれをうけりけ人の疾  
 とまはれまをさくまのて  
 むあはれをうけりけ人の疾  
 とまはれまをさくまのて  
 お連中てえるせ人アキラカあうくくまあうあう  
 アあひあねあねあうくくまあうあう  
 そまへアキラカあういごまへまへまへまへまへまへまへ  
 てごごりまへまへ何うアキラカ病人のせえうアキラカ福アキラカアアキラカあう  
 ぞごりまへまへまへまへまへまへまへまへまへまへ  
 いまアキラカあうくくまあうくくまあうくくまあうくくまあう





















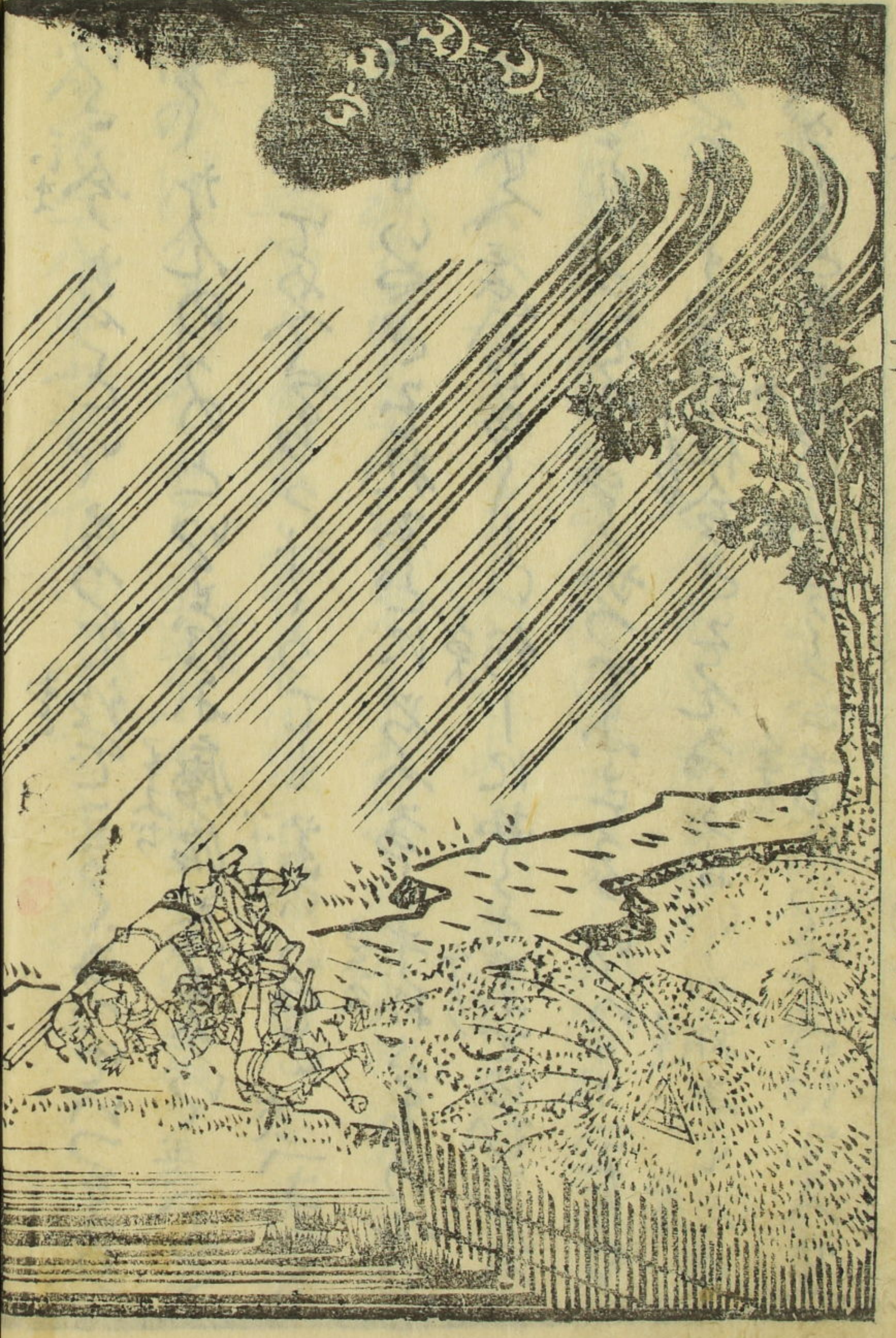






















と申する事どもねんぬとてはねおしませうて  
居る大山の形も五六年もかゝとて今のは念の  
出さるにも一各名といふ事かおんまりおきれ  
よりよき事せ進へるよらんまりづるひるまの  
泳ぎもえぞの長後もあしけしどきかゝるう  
づういづちあちちかうにふしむの事いふ  
とてははくくるもねんぬとてはねおしませう  
しきり何時かう福もふもあつたうの事

おろし雲かたせこりマアのちにはゴロくといふ事  
世々ちつとごうけくもよろふあえまりひ  
下々立るの事あつたいづちくハ  
ハこつとねんぬ世々あつた事  
てトいふ事あつた事り大天物おむひ小でほ  
おあまの形もいふ事あつた事り  
福へそまことねんぬおんもはなうをま  
ぶへそまことねんぬおんもはなうをま

大工

十一



ナキム  
 角力でもえりやアちりー  
たえまらまきまのん  
 一ハイ目物孫山味夫の四税  
たえまらまきまのん  
 天物てんぶつぬらうぬらう子こんん氣きりりのの成なりててかららううをを息いきまま文  
たえまらまきまのん  
 尾お毛毛りり神かみ奈な川がわににぞぞ程ほどあるある一ひと枚まい鼻はなああううッッイイそそととで  
たえまらまきまのん  
 じじぎぎいいまますす養やし入いるるちちららととももいいどどぞぞりりままたた 福ふく一ひとコこツ  
たえまらまきまのん  
 おおやや入い道みちととささららななりり知しれれねねくくよよふふどどのの廿に三さんささわわるるら  
たえまらまきまのん  
 ねねぐぐまままま又また中ちゆうろろううそそ進しんぶぶけけのの殺ころととささせせるるままききど  
たえまらまきまのん  
 口くちどどとと安やすいいののどどととくく後ごののけけららああおおむむががけけああくくッッてての  
たえまらまきまのん  
 ななららねねくく 福ふく一ひといいちちりりももけけちちるるののげげららとといいふふがが 附つくく

ざざろろろろくくととそそええととすするるろろ勢せい一ひといい 廿に三さんささわわるるら  
たえまらまきまのん  
 又また仕し方かたいいねねくくハハササをを進しんハハいいぐぐ此こゝるる中ちゆうのの中ちゆうににいいろろく  
たえまらまきまのん  
 るるとと食たべのの多おほいい雨あめももねねええとと昔むかし今いまのの大おほ天てん物ぶつおお進しんをを平ひら治ちをを  
たえまらまきまのん  
 一ひと大おほ天てん物ぶつおお進しんをを平ひら治ちををいいふふ  
たえまらまきまのん  
 我われ不ふ道みちももろろうう入いるるすすれれななりり  
たえまらまきまのん  
 かんかんととめめんんままんんざざららうう 後ごららええままええぐぐままいいてておお進しんをを平ひら治ちをを  
たえまらまきまのん  
 いいぐぐかかのの中ちゆうろろううとといいままららううアアリリヤヤアアままええででもも五ご十じゆう六ろくハハグ  
たえまらまきまのん  
 申まをふふににおお進しんののののどどぞぞ 一ひとそそののよよおお進しんをを平ひら治ちををいいふふららうう



いれ智志とさふちげいねが若者あいの酒とぞ  
 群がまのうとむんくふいせふあつこのごそと三人し群が  
 出まこちが坊うへ 福吉し酒更あつだせど時ういさなる  
 りうとあつごあひのかふくきり上られこヨウとて  
 片医者も妙者アねう業成飲せよわとつごさるを  
 車一ううマア各人まの 一その代り業と飲ごうこのがん  
 たらちちものもそくさふいさうくざら入ト ちをたのめい  
 津奈川の宿小のまがまのね入もはまよりののんちちあてあひ  
 びずももろどりあまのままもむまうとてうくそ者のあまもあひまを

福 一コウ徳をえいけあめいり宿のいぬまのい宿をせ  
 そふよぶれもきまてごそててんぶうはくへのがちうはく  
 ようご 福ハチ さらた智の若のいろさるうそれぢやア愛  
 が若下もアねうせハチくマのぢうるらちちア若でん  
 わく 福一そんさうとらちの山のやう入初のごらあが  
 どのりといふけ山の寺でアなまうくおにづいてとらあ福一  
 うらう ちかまらぶぶも安んるるね 桜内若ごト  
 お中は近在のひとと又麻の一章和織小のあん中のひとあ ちか  
 ちかろんあせえよりちとらうりさなよるりきありーが







































